

平成28年度実施「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」集計結果等の概要

神奈川県教育委員会教育局指導部高校教育課

平成28年度、全県立高校を対象に行った「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」の集計結果を取りまとめました。今後の県立高校改革の動向を踏まえ、分析結果を活用しながら、魅力と特色ある県立高校づくりに生かしてまいります。

I 実施対象

生徒	全県立高校（全課程）の卒業学年・年次の生徒
保護者	上記生徒の保護者
学校評議員	「県立高校改革推進計画」に基づき開校した、新しいタイプの高校37校43課程の学校評議員（対象校は別紙参照）
学校運営協議会委員	平成28年度コミュニティ・スクール指定校5校の学校運営協議会委員（対象校は別紙参照）

II 実施時期

平成29年1月～3月

III 集計区分

課程	学科	学びのしくみ	校数	対象校
全日制	普通科	学年制	96	鶴見、横浜翠嵐、城郷、港北、新羽、岸根、霧が丘、白山、市ヶ尾、田奈、元石川、川和、荏田、新栄、希望ヶ丘、旭、松陽、瀬谷、瀬谷西、横浜平沼、光陵、保土ヶ谷、舞岡、上矢部、金井、横浜南陵、永谷、柏陽、横浜緑ヶ丘、横浜立野、磯子、氷取沢、釜利谷、新城、住吉、川崎北、多摩、生田、百合丘、生田東、菅、麻生、横須賀、横須賀大津、追浜、津久井浜、大楠、逗子、逗葉、鎌倉、七里ガ浜、大船、深沢、湘南、藤沢西、湘南台、茅ヶ崎、茅ヶ崎北陵、鶴嶺、茅ヶ崎西浜、寒川、平塚江南、高浜、大磯、二宮、秦野、秦野曾屋、伊勢原、伊志田、西湘、足柄、大井、山北、厚木、厚木東、厚木北、厚木西、海老名、有馬、愛川、大和、大和南、大和東、大和西、座間、綾瀬、綾瀬西、麻溝台、上鶴間、上溝、相模原、上溝南、橋本、相模田名、城山、津久井
		単位制	11	神奈川総合、横浜旭陵、横浜桜陽、横浜栄、川崎、三浦臨海、平塚湘風、小田原、厚木清南、藤沢清流、相模原青陵
	総合学科	単位制	11	鶴見総合、横浜緑園総合、横浜清陵総合、金沢総合、大師、麻生総合、藤沢総合、秦野総合、座間総合、相模原総合、吉田島総合
	専門学科	学年制	16	神奈川工業、二俣川看護福祉、商工、磯子工業、川崎工科、向の岡工業、横須賀工業、藤沢工科、平塚農業、平塚工科、平塚商業、小田原総合ビジネス、小田原城北工業、厚木商業、中央農業、相原
単位制		5	横浜国際、横須賀明光、海洋科学、神奈川総合産業、弥栄	
定時制	普通科	学年制	7	横浜翠嵐、希望ヶ丘、横須賀、追浜、茅ヶ崎、伊勢原、津久井
		単位制	6	横浜明朋、川崎、小田原、厚木清南、湘南、相模向陽館
	総合学科	単位制	5	磯子工業、向の岡工業、平塚商業、秦野総合、神奈川総合産業
	専門学科	学年制	3	神奈川工業、平塚農業初声分校、小田原城北工業
通信制	普通科	単位制	2	横浜修悠館、厚木清南

IV 実施内容

生徒の回答者数及び回答率

区分		対象者数	回答者数	回答率	
全日制	普通科	学年制	28,587 名	22,931 名	80.2 %
		単位制	2,987 名	2,445 名	81.9 %
	総合学科		2,675 名	2,234 名	83.5 %
	専門学科		4,506 名	3,893 名	86.4 %
定時制		1,209 名	841 名	69.6 %	
通信制		408 名	348 名	85.3 %	
全体		40,372 名	32,692 名	81.0 %	

V 結果の概要（次項以降）

1 生徒向けアンケート結果

- (1) 高校生活を振り返って、あなたが通っている学校に満足していますか。
- (2) キャリア教育によって自分が成長できたと思いますか。
- (3) 学校の授業や学習活動が将来の自分のために役に立つと思いますか。
- (4) 中学生のときよりも思考力・判断力・表現力を高めることができたと思いますか。
- (5) 中学生のときよりも人を思いやる気持ちが身についたと思いますか。
- (6) 中学生のときよりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。
- (7) 「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持ちましたか。

2 生徒と保護者の満足度の比較

3 学校評議員の意見

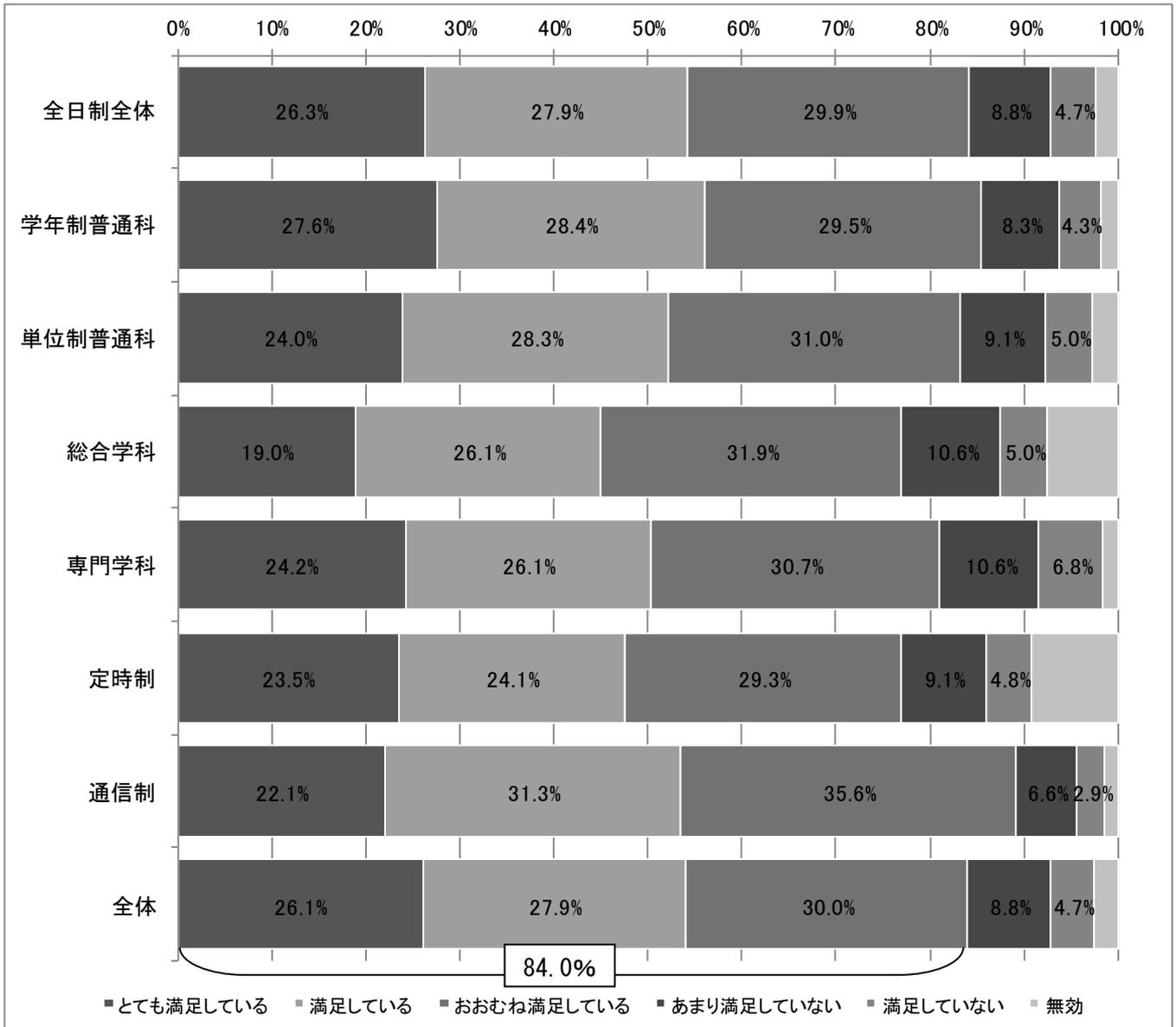
4 学校運営協議会委員の意見

1 生徒向けアンケート結果

学習希望や興味・関心に応じることができるよう、特色ある科目の設置や、学校行事、部活動等の多彩な活動の提供など、活力と魅力ある県立高校をめざして取り組んできたが、この取組を検証するため、アンケートを実施した。

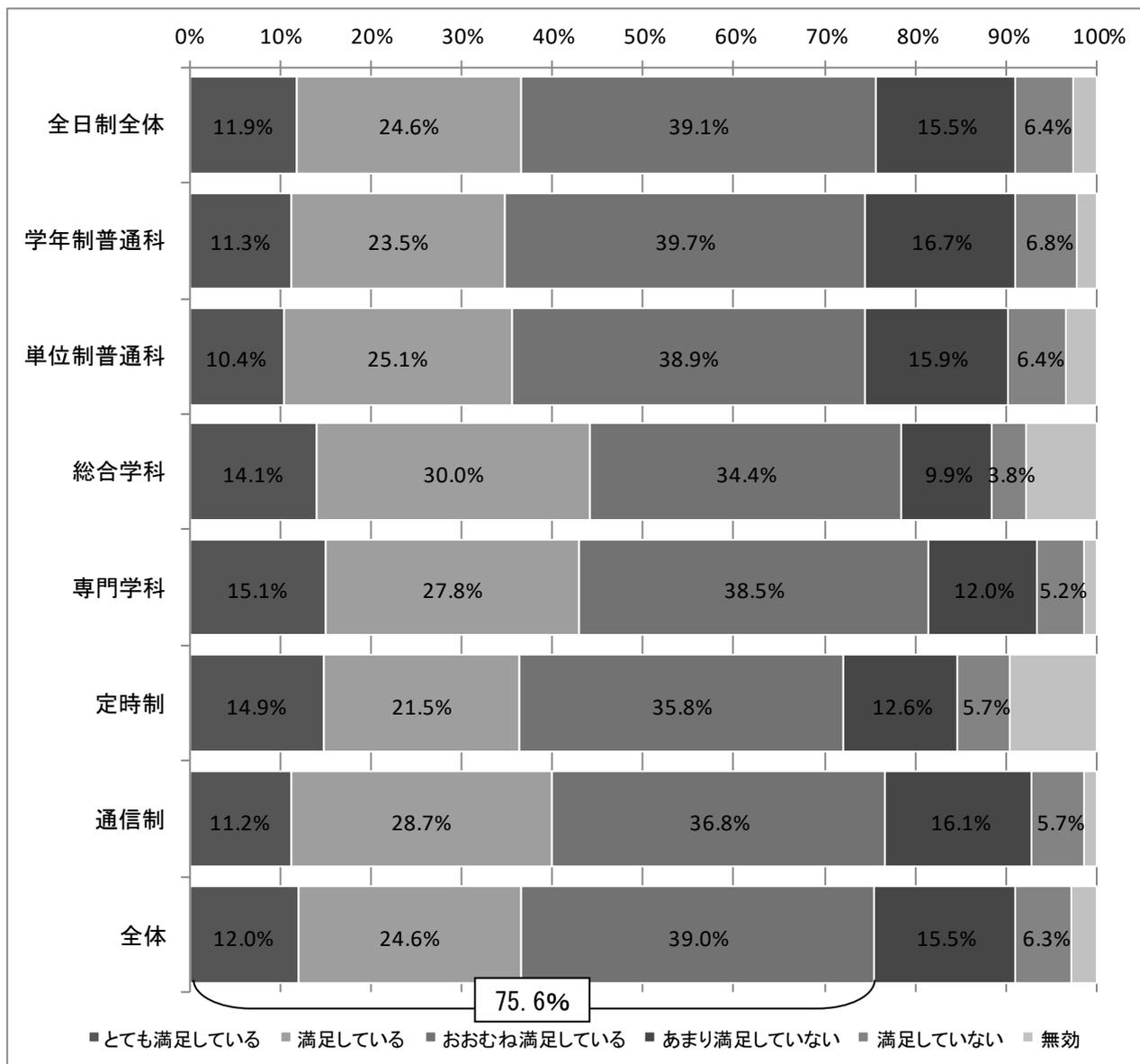
(1) 高校生活を振り返って、あなたが通っている高校に満足していますか。

「高校生活を振り返って、あなたが通っている高校に満足していますか。」という設問に対して、「とても満足している」「満足している」「おおむね満足している」のいずれかに回答している生徒（以下「満足群」という。）は、回答者全体の84.0%となり、平成26年度（87.4%）、平成27年度（86.3%）に比べ、その割合は若干減少した。満足群は高い割合が続くが、多様化する生徒・保護者のニーズに応えた教育活動による魅力ある県立高校づくりのさらなる推進が必要である。



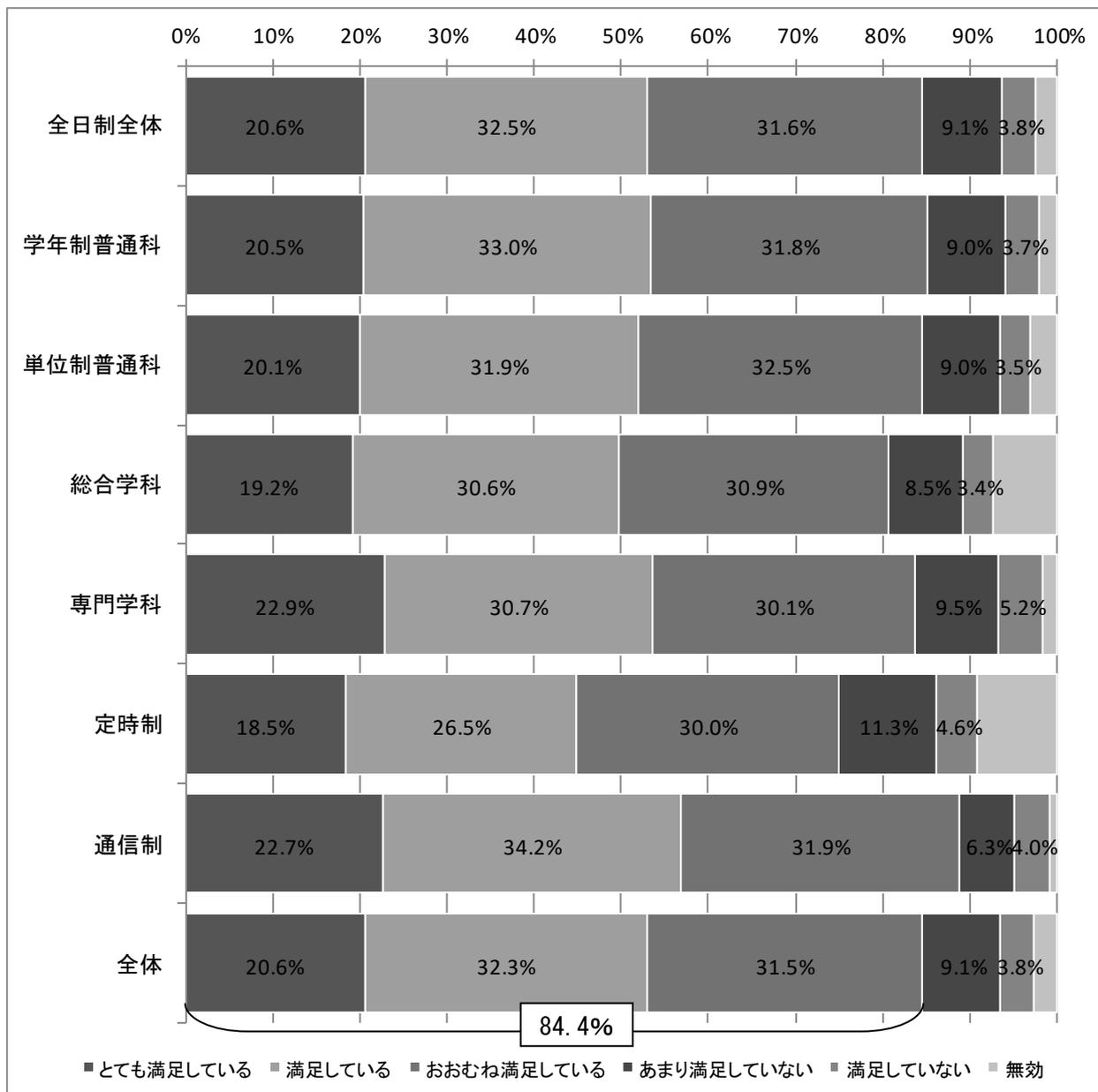
(2) キャリア教育によって自分が成長できたと思いますか。

「生涯を通じた自分の生き方・あり方について考え、勤労観・職業観を身に付けるための教育（キャリア教育）により、自分が成長できたと思いますか。」という設問に対して、満足群は、回答者全体の75.6%となり、平成26年度（82.8%）、平成27年度（77.7%）と比べその割合は減少した。県立高校改革実施計画（I期）の推進により県立高校全体で質の高い教育の充実に向けて取り組む中で、生徒は様々な力を伸長する機会が増えており、昨年度も指摘したように、既に各校において定着しているキャリア教育に限定して成長を実感することは少ないと考えられる。



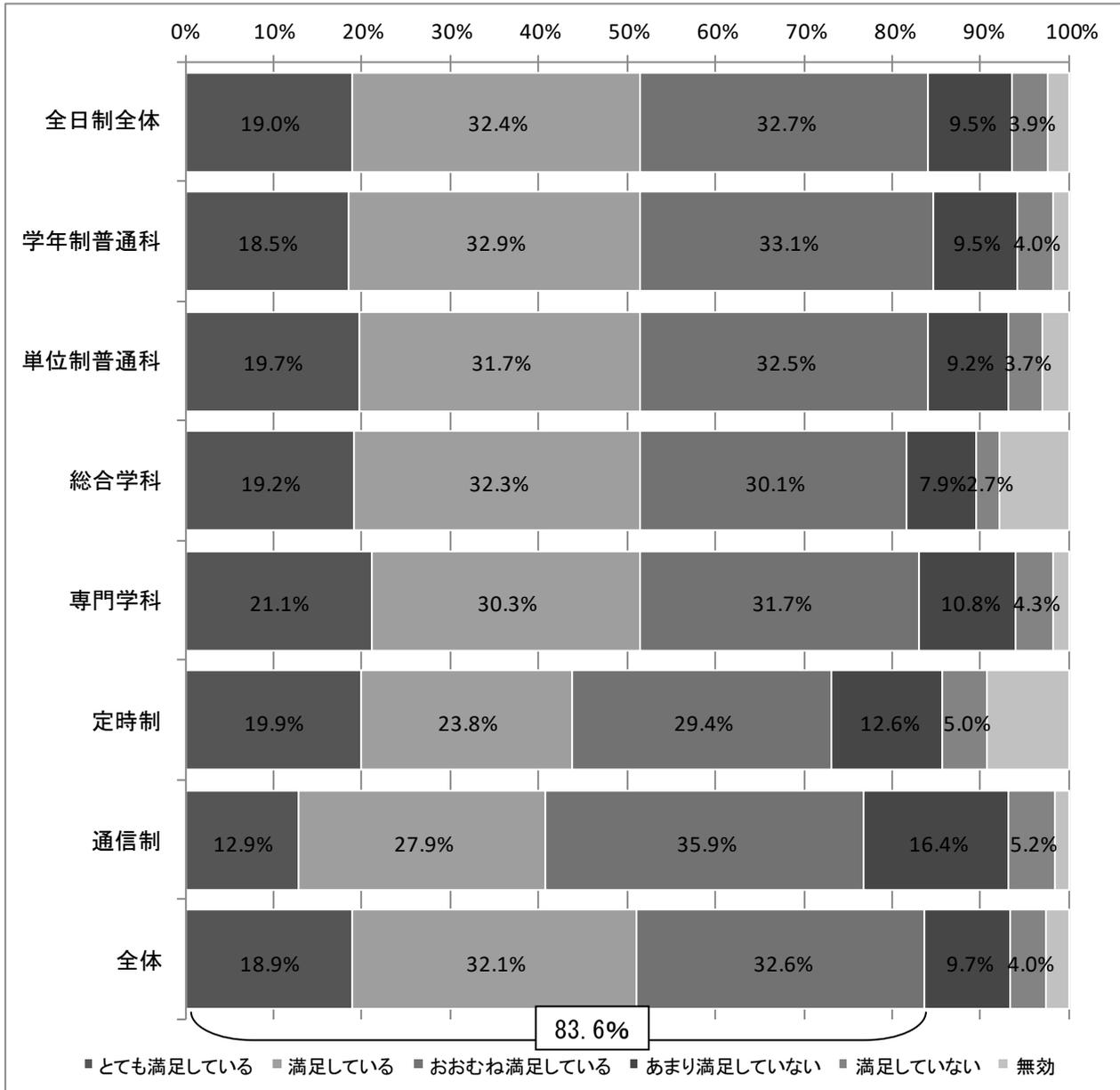
(3) 学校の授業や学習活動が将来の自分のために役に立つと思いますか。

「学校の授業や学習活動が、将来の自分のために役に立つと思いますか。」という設問に対して、満足群は、回答者全体の84.4%となり、平成26年度(85.4%)、平成27年度(86.7%)に比べて若干減少した。満足群は高い割合となっているが、引き続き自己の進路への自覚を深める取組の充実や教育の質の保障に取り組む必要がある。



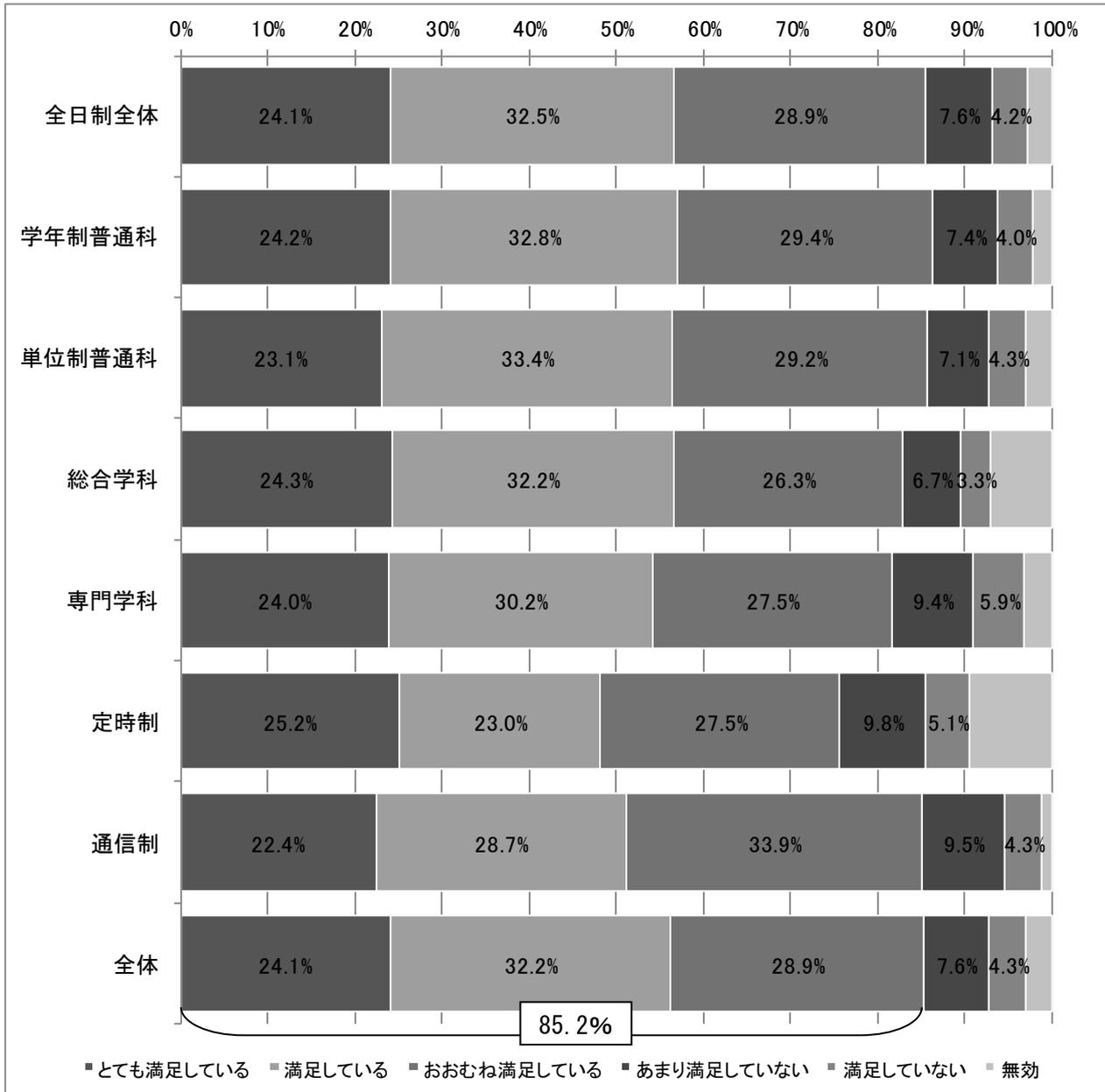
(4) 中学生のときよりも思考力・判断力・表現力を高めることができましたか。

「高校生活において、課題の発見と解決に向けて主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動を行うことによって、中学生のときよりも思考力・判断力・表現力を高めることができましたか。」という設問に対して、満足群は、回答者全体の83.6%となり、平成27年度（85.0%）に比べて若干減少した。日々の授業において、主体的に考えたり、発表しあうなどの協働的な学習活動が定着してきたため、生徒の満足度に対する規準も年々上がっていることが原因と思われる。引き続き、思考力・判断力・表現力を高める取組の推進を図る。



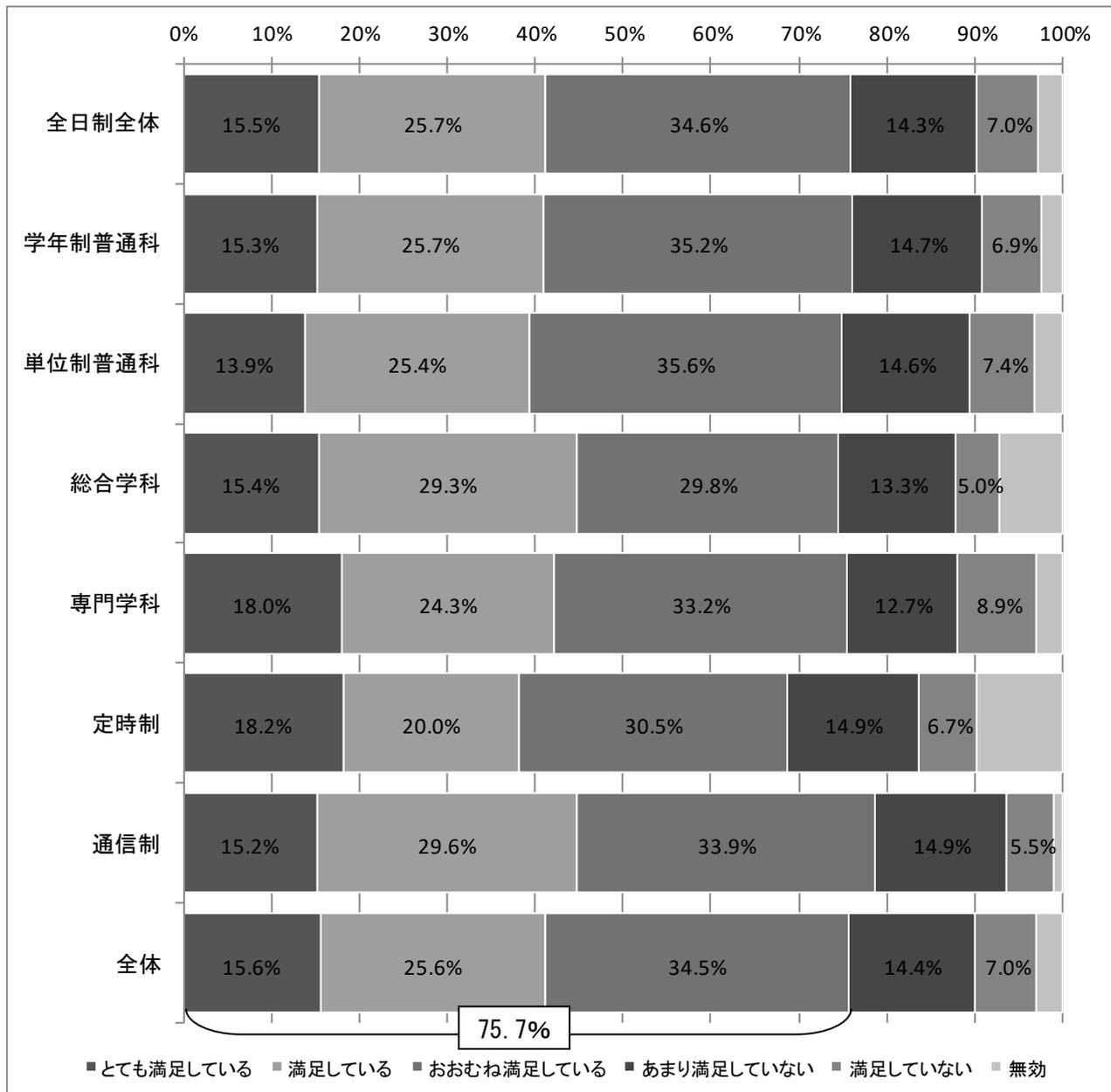
(5) 中学生のときよりも人を思いやる気持ちが身についたと思いますか。(新規設問)

「高校生活を振り返ってみて、中学生の時よりも人を思いやる気持ちが身についたと思いますか。」という設問に対して、満足群は、回答者全体の85.2%となった。いのちの大切さや他人への思いやりを学ぶ「いのちの授業」等の取組により、高校生活を通じて、他者への理解がより深まったと考えられる。



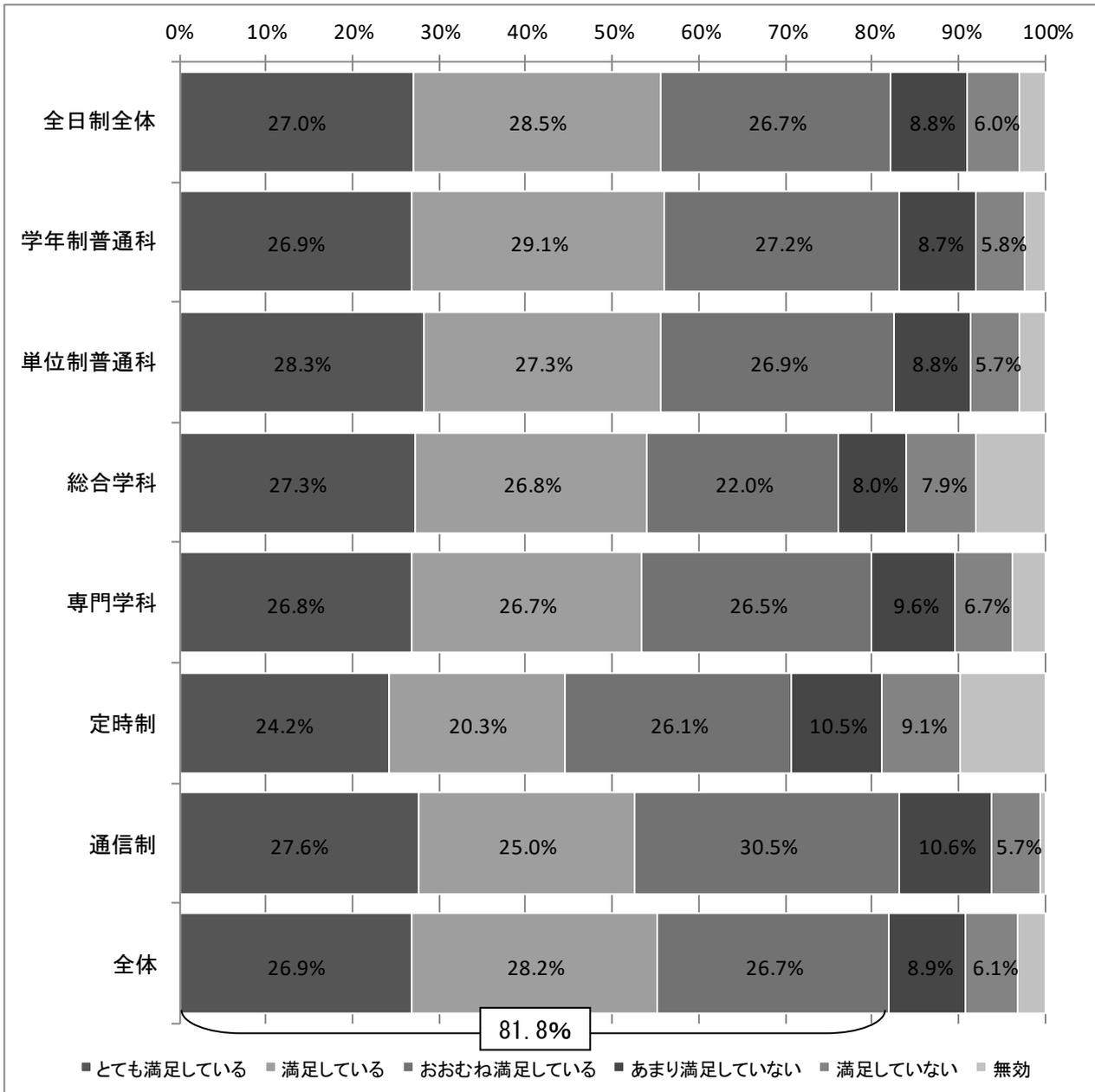
(6) 中学生のときよりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。（新規設問）

「高校生活を振り返ってみて、中学生のときよりも（地域）社会に貢献しようと思うようになりましたか。」という設問に対して、満足群は、回答者全体の75.7%となった。多くの生徒は中学校在籍中に地域との交流活動に参加しているため、高校入学前から地域貢献に対する意欲が高いと考えられる。県では全県立高校へのコミュニティ・スクールの導入を進めており、今後、地域との協働の機会が増えると考えられる。



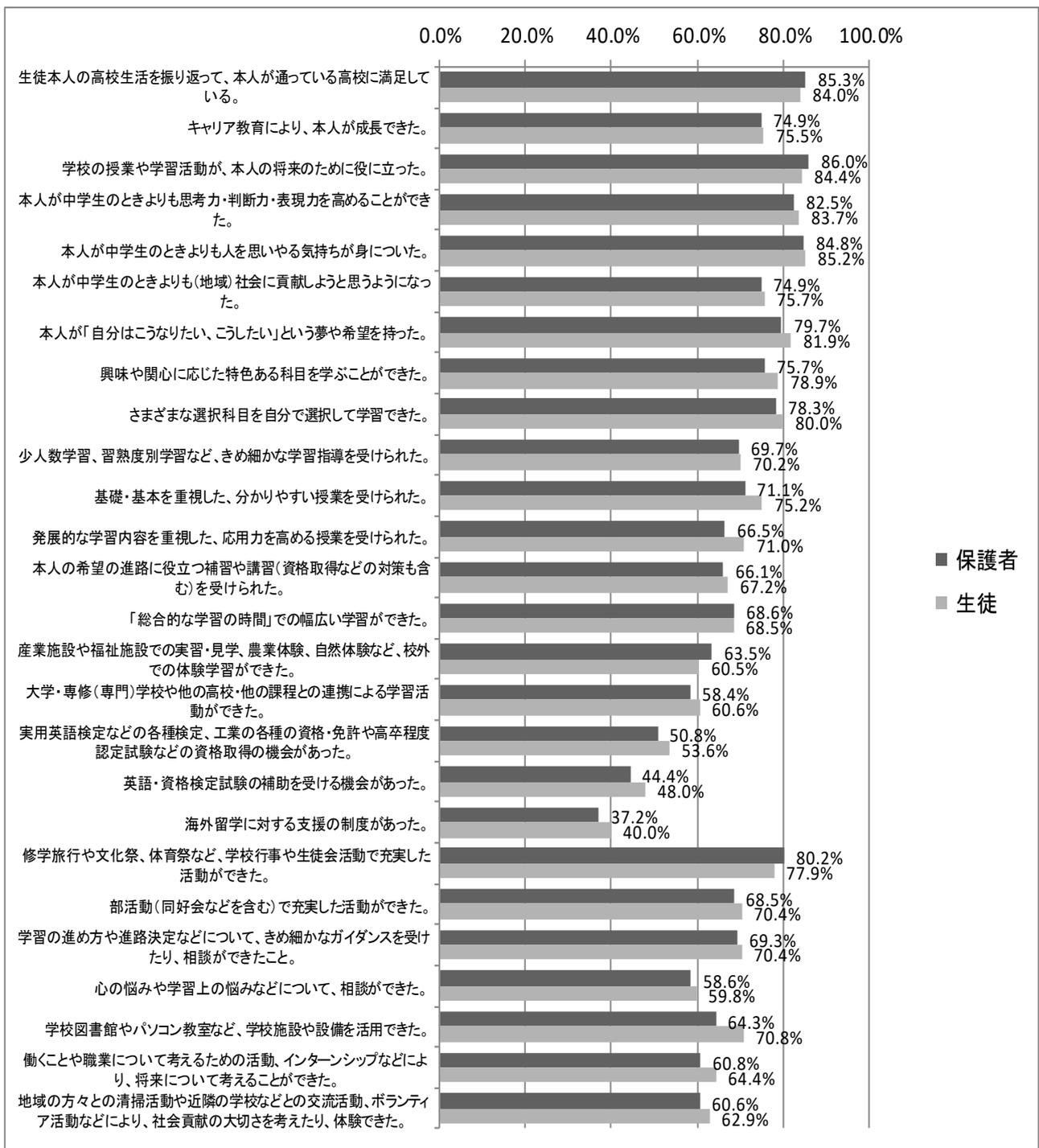
(7) 「自分はこうなりたい、こうしたい」という夢や希望を持ちましたか。(新規設問)

「高校生活を通して、『自分はこうなりたい、こうしたい』という夢や希望を持ちましたか。」という設問に対して、満足群は、回答者全体の81.8%となった。生徒が主体的に活動する授業等の取組により、自己肯定感等が育成され、生徒が将来に対しての夢や可能性を広げることができたと考えられる。



2 生徒と保護者の満足度の比較

生徒と保護者共通の設問について、それぞれの満足群を比較した。「生徒本人が通っている高校に満足していますか。」という設問に対する保護者の満足群は85.3%と、生徒の満足群（84.0%）より高い割合となった。また、「学校の授業や学習活動が本人の将来のために役立った」との設問は、保護者の満足群の割合（86.0%）が生徒の割合（84.4%）よりも1.6ポイント高くなっている。一方で、「生徒本人が『自分はこうなりたい、こうしたい』という夢や希望を持った。」という設問では、生徒の満足群の割合が保護者の割合より2.2ポイント高くなっている。



3 学校評議員の意見

【対 象】「県立高校改革推進計画」に基づき開校した、新しいタイプの県立高校37校の学校評議員

【対象校】別紙参照

【内 容】新校についての印象や新校に期待することなど、新校への意見

【意見集約の方法】各学校において、学校評議員会を通じて伺った意見を取りまとめた。

(1) 学校の教育目標や教育計画

- 自己有用感をもち、自身をもって社会を歩んでいくために、しっかりとした学力を身につけることが重要である。授業改善の取組を大切にしてほしい。県立高校改革を受け、定期テストの共通化や、系列科目の精選等を行い、年次進行型総合学科に合わせた学校運営を実施していることは評価できる。
- 行事等について、事前・事後指導を含め、更に効率的な運営はできないか。
- 公開研究授業やその後の研究協議が充実していて良いが、今後も生徒の学ぶ意欲を伸ばす工夫を続けてほしい。
- 詳細な教育計画が策定されており、それらに基づいた教育活動が行われていることは、評価できる。今後は、卒業生など外部の力も活用した教育プログラムを検討するとより効果的である。
- 生徒による授業評価が年々上昇していることは、評価できる。組織による授業改善が進んでいると感じられる。今後は、生徒の深い学びに向けた授業改善に努めること。
- アクティブ・ラーニングのような新しい教育手法を積極的に取り入れることも良い試みと思う。目的を明確にするのも良いと思う。
- 防災教育において、石巻の高校生との交流は大変有益であった。防災のみならず、将来の進路や日ごろの学習を自らのものと考え理解させ、取り組ませる指導が重要である。
- 理系の大学においても、数学が苦手な生徒が増えている。数学、英語に力を入れてほしい。
- 外部の教育資源（地域、会社、大学、短大、専門学校等）との連携をいっそう進め、生徒たちが自覚的に進路選択をできる機会を複数設けることで、学びの質を高めていってほしい。
- CEMLAの活動は、在県外国人の支援という観点だけでなく、一般生徒にとっても意義のあるものになっていることが分かった。

(2) 学校の特色づくり

- 授業を見たが生徒がパソコンを使えない。授業評価アンケートでも、「パソコンを使って発表したい」が少ないのはそのためではないか。タブレットに触れる機会を増やしてみてもどうか。
- 生徒による授業評価等を分析し、授業の見直しを行うとともに、生徒対応に活かしてほしい。
- ホームページへの取組はとても良い。中学生や地域の住民もホームページはよく見ている。さらに充実させてほしい。部活動の活動記録などを載せることで、部活動の活性化にもつながるのでは。
- 授業改善の成果を学校全体で活用してほしい
- 総合学習の発表など、アクティブ・ラーニングの成果が出ている。
- 半期認定制度や選択科目が多く、教員の負担が大きいのでは。選択科目を精選し、内容の濃い授業にしてほしい。

(3) 生徒指導

- 学校全体が一丸となって取り組み、粘り強く指導・努力を継続している結果が出ている。授業の様子

を見ても、非常に落ち着いている。以前のような異装がなくなっている。バス・電車内のマナー、自転車の乗り方の指導をさらにすすめてほしい。またSNSについては、個人のモラルによっては凶器にもなるので、情報リテラシー教育を進めてほしい。

- 生徒理解に向けた教員研修は有意義である。研修の結果を生徒への適切なサポートに活かしてほしい。
- いじめ防止に向け、これからも予兆を見逃さずに指導してほしい。
- 多様な生徒に対して、ケース会議の実施やスクールカウンセラーとの連携、協力体制の構築など、教育相談体制が充実していることは評価できる。

(4) 地域との連携

- 地域連携事業は今後も継続して実施してほしい。
- 地域連携による教育的効果の検証も行ってほしい。
- 地域との交流事業は、生徒が学びの大切さを理解することにとっても有効である。持続性が大事。バラエティが豊富で参加小学校、中学校からの評価も高い。
- 文化祭などのイベントを、もっと地域にアピールして学校と地域がさらに連携すると良い。
- 学校側から地域に依頼ではなく、地域から学校への協働という形があっても良いのではないか。
- 地域と連携したコンソーシアムの形成を具体化する必要がある。PTAのOB、OGのネットワークを活用することも検討してほしい。
- コミュニティ・スクールの導入に向けて、本校としての「地域」の定義を明確化して、導入準備をする必要がある。

(5) その他

- 学校目標や具体的な方策が抽象的なものが多いので、可能な部分で目標や結果の数値化や取組期限の明確化を意識して設定してほしい。
- 年次進行型への移行準備を丁寧に進めてほしい。
- 在県外国人等特別募集を実施することに伴う、外国につながるのがある生徒への対応など、生徒の多様化に対応した支援体制を整えてほしい。
- デュアルシステムやインターンシップ等、実際に働く体験を通じて学ぶことは多いと思う。これからも充実させてほしい。
- 課題研究等を通じて、生徒のプレゼンテーション能力は伸びていると感じられる。今後は、その学びが継続的なものとなることを期待したい。
- 学校管理・運営や教員の教育力を向上させるため、研修会や講演会などを多く開催し努力をしており、大いに評価できる。

4 学校運営協議会委員の意見

【対 象】平成28年度コミュニティ・スクール指定校5校の学校運営協議会委員

【対象校】別紙参照

【内 容】指定校についての印象や指定校に期待することなど、指定校への意見

【意見集約の方法】各学校において、学校運営協議会を通じて伺った意見を取りまとめた。

- 地域防災のイメージがまだわからない。学校が拠点となってできる活動のあり方など考えてほしい。
- 教育課程については、相当工夫をして力を注いだもので、生徒がわかる授業につながっている。
- 生徒への様々な支援がランドデザインとつながった形で行われている。
- 学習環境を整備することは重要なことであり、可能なかぎり今後も試みてもらいたい。行事の精選については、学校教育目標と各行事目標の整合性を確認しながら優先順位をつけて実施していくことが望まれる。
- 地域の学校間の連携を深めた活動を行うには、小中学校の学校評議員会に高校からもメンバーとして加わると取組が進む。
- 工業高校の特色を活かして地域産業の発展に寄与するために、伝統文化や地域産業と連携を推進できないか。学校がものづくりに関して企業と連携し商品化の試みができないか。
- 生徒が昼休み等に気軽に先生と相談する姿を見た。個々に話せる雰囲気が良い。
- 段階的な進路ガイダンスを実施しながら高い進路実現を図ろうとしていることが高く評価できる。
- 開かれた学校づくりの意欲を感じる。